

# 地道に植樹、森を再生

NPO法人「地球の緑を育てる会」理事長

いしむらあやこ  
石村 章子さん(78)



ドングリから苗木を育て、植樹し、生態系に適した森に再生する活動に取り組むNPO法人「地球の緑を育てる会」で理事長を務める。

環境活動に携わるようになってしたのは、子育ても一段落した50歳を過ぎたころ。ある日、夫から「銀座で電話番の仕事があるんだけど、やってみない？」と言われ、「大好きな銀座ならいいわ」と引き受け

た。

オフィスに向かうと、そこは中国の砂漠緑化に取り組むNGO団体だった。その団体が働いたことが、緑化事業に関心を寄せるきっかけとなった。その後、中国だけでなく、国内外でも緑化活動に取り組みたいと考え、2001年に同会を設立した。

つくばみらい市の圃場(はら)でシイ、カシ、タブを中心とする常緑広葉樹の苗などを育てている。拾ったドングリをまいて、メンバーと共に水やりや除草を行い、植樹可能な苗木になるには約3年かかる。

06年から始めた筑波山神社林での植樹をはじめ、下妻、坂東市内にある工場敷地での植樹、東日本大震災で被害を受けた宮城県石巻市や福島県

いわき市などの神社の鎮守の森再生にも取り組んできた。

国土の約3分の2を森林が占める世界有数の森林国、日本。広大な自然に対し、「自分たちができることは微々たること。時間も労力もかかる植林はアナログで、効率優先の現代とは真逆かもしれない」。それでも活動を続けることが、「地球温暖化防止や防災にもつながる。何より、植物には人間の心を潤す力がある」。森を育てる地道な活動が豊かな緑を生み出しつつある。

中国・大連生まれ。帰国後、父の故郷である古河市で中学まで過ごした。東京女子大学卒業後、大手銀行に勤務。つくばみらい市在住。

ひと  
きらり

